

1971 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆石川奨励賞(論文調査部門)「東京都における都市地所有と都市形成」

小林 重敬(横浜国立大学工学部建築学科助手)

〈選考理由〉

本研究は本学会の学術講演会において発表された論文である。現代の都市問題は土地問題であるというほど、その関連度合いは高い。都市における宅地の細分化の傾向は著しいものがあり、都市の経済構造と密接に結びついて、今後の土地問題をますますむずかしげものになっている。

本論文は、従来、未開拓の分野といわれる市街地宅地所有に関する実証的研究を主要目的とし、あわせて、市街地宅地状況と都市形成、なかんずく住宅地形成・との関連を、戦前の東京を例にとりて研究を行なったものであり、東京の宅地の大部分を二分して所有していた華族地主と商人地主が東京の都市形成に積極的には関与しえずにそれぞれ細分化されてきた実態を明らかにした。

以上のように本論文は戦前の実態を明らかにしてはいるが、最も問題となる戦後まで研究が及んでいないことはまだ多くの問題を残している。とはいえ、従来、未開拓であった本分野について、原資料に基づき、地道な研究を続けることにより、戦前の東京の土地所有の実態と都市形成過程を明らかにした意義はきわめて大きいものと考えられる。

筆者は本研究と関連した論文により学位を授与されており、今後さらに、この方面での研究が継続されることを期待して、ここに石川奨励賞を贈るものである。

◆石川奨励賞(論文調査部門)「居住地選定動機調について」をはじめとする一連の研究

松浦 義満(金沢大学工学部土木工学科助教授)

《選考理由》

上記論文は本学会の学術講演会において発表された論文であって、都市生活者が自己の住宅立地点を選定するに際して、その地点の居住環境だけでなく、従業地への通勤所要時間にもかなり大きなウェイトをおいていることに着目し、各就業者が自己の住宅立地点を選定する際に考慮する要因、特に最も大きなウェイトをおいている要因について調査の上、それらの要因間の関連について分析し、検討を行なったものである。

著者は、従来非常にむずかしい課題とされている土地利用と交通との関係について、法則を検証し、それを定量的に表現する方法を開発するための研究を、ここ数年に亘り、ひたすらに継続し、本学会や土木学会などで発表している。これらの一連の研究は、方法論としては細部についてはなお研究の余地が残されているとはいえ、従来の恣意的な部分の多い計画の方法論に定量化による科学的手法を加えようとする意欲的な研究であり、都市計画学の新しい発展に寄与するものと考えられる。今後、さらに、この方面での研究が継続され、より理論化が進められることを期待して、ここに石川奨励賞を贈るものである。